

第 46 回若手研究者・院生情報交換会 報告

テーマ：「社会人院生による実践研究（その 2）—リサーチクエスチョンを解決するための研究方法に焦点を当てて—」

日時：2020 年 1 月 25 日（土） 14:00～17:00

会場：佛教大学紫野キャンパス 1 号館 305・306 教室

参加者：26 名

佛教大学大学院社会福祉学研究科修士課程 田淵 健

第 46 回若手研究者・院生情報交換会では、開催テーマに基づいて、社会人院生を経験したことのある（または現在している）3 名から報告をいただいた。研究と実践の向き合い方や仕事との両立の難しさ、研究を通しての学び、気づきなど考えさせられる内容であった。報告後は、指導教員の立場を代表して同志社大学教授：小山隆先生からコメントをいただいた。その後、参加者 22 名（12 名が大学院生）と報告者 3 名、小山先生とのディスカッションが行われた。自身は、社会人院生ではないが本会に参加しての感想を書き留めておきたい。

初めの報告者は、佛教大学大学院通信教育課程社会福祉学研究科修士課程に在学中の上田純子氏であった。上田氏は実践経験から「重度障害児」をテーマに 2018 年に当大学大学院に入学された。「重度障害児とその家族が直面する諸課題に関する一考察」をテーマとして修士論文を執筆され今年度中の修了を目指している。上田氏はインタビュー調査の中で、当事者家族が話しやすいようにと半構造化面接を取り入れた質的調査を実施した。報告からはインタビューを通して家族の想いを引き出すこと、本音で語ってもらうことがどれほど大変で難しいことであるかを感じ取ることができた。聞き取った内容から主観を客観へ、客観を本人の思いへと落とし込むことの大切さ、当事者が発信することの難しさを挙げておられた。いかに客観的に当事者の課題を捉えられるか（客観性の持たせ方）、それをどのように社会に提唱していくのか、研究と実践のリンクという面においては多くの学びがあった。

続いての報告者は、佛教大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程に在学中で普段は急性期病院の MSW として活躍し、医療分野における認定社会福祉士の資格を持つ竹森美穂氏である。竹森氏は「ソーシャルワーカーの継続学習における専門職団体の機能に関する研究」というテーマで MSW の教育、養成に焦点を当てた研究をされている。継続学習の実態を測定する指標として量的調査と質的調査を行い、その両面から専門職団体とは何か、継続学習の機能はどのようなものなのかという問いを立てておられた。修士論文に立ち返り、研究と実践に対して自分は何に疑問を抱いているのか常に「問い」を考え、大切にしていることが竹森氏の報告から見受けられた。研究と実践を繋ぐことが社会人院生の役目であり、研究を通して身に付けた知識を社会や仕事に還元し共有していくことの大切さを学んだ。

最後の報告者は、同志社大学大学院博士後期課程を修了され、現在は広島国際大学で研究に励まれている岡本晴美氏であった。岡本氏は「社会福祉施設における人材育成システムの

基礎的研究—児童養護施設における取り組みを通して—というテーマを掲げ、施設内において職員間の人間関係を含めた職場環境の観点から人材育成の在り方を研究されている。岡本氏は研究方法としてアクションリサーチを挙げておられた。人材育成による取り組みが機能する土台、仕組みをつくるうえで「関係の質(職員間の良好な関係)」を重視した人材育成の必要性を提唱された。その根底にある問いは、子どもたちが生きていくことを支えるために必要な支援とは何か、である。職員同士のチームワーク、連携など人材育成に関心を持ちリサーチクエスチョンを立てるに至った経緯について説明された。実践研究を踏まえて、福祉現場の課題を現場と協働して解決する方法を探ることの大切さや現場とともに豊かな実践を創造することの在り方などを学んだ。

3名の報告終了後には小山先生からコメントをいただいた。そのコメントの中で最も印象的だったのは研究に励む過程で大切なのは「原点に戻る」ということである。入学当初に戻り、何を研究したくて大学院に進学したのか、現在取り組んでいる研究を今後どのようにして活かしていけるのかももう一度振り返ることの大切さを改めて感じた。小山先生の一言で、行き詰ったり、困難な壁に当たったりした時でも、初心に帰って前向きな姿勢で取り組みたいと強く思うようになった。参加者とのディスカッションでは、社会人院生は限られた時間の中で如何に効率よく研究を進められるかという質問に対して、報告者の3名はそのポイントを各々述べていた。例えば、テレビのCMやネットを通じて流れてくる何気ない情報にもアンテナを張り、必要に応じてメモを取り、後に文章化していくことも研究を行う上では大切な作業である。竹森氏はそのように仰っていた。「正しい答え」がない業界であるからこそ、自分なりに研究との向き合い方を工夫して取り組まなければならないと感じた。また、時間的に制限を受ける社会人院生は仕事との両立の大変さを感じている人も少なくない。その対策として挙げたのは、仕事は勤務時間内に終え週末に研究の時間を確保する、月に2回はプライベートに時間を充てる、時間を決めて要領よく進めるなどである。取り組み次第でより良い方向に傾く場合もあり、判断は個々に委ねられると受け止めた。

今回の若手研究者・院生情報交換会は、研究方法に焦点を当てて実践と研究への向き合い方、問いから結果への過程に着目するものであった。3名の報告者が実際に経験し、そこで得た学びや気づき、感じたことなどリアルな声を聞けたことは非常に勉強になった。小山先生のコメントにもあったように「なぜ？」の部分を追求することや指導教員とのディスカッションの重要性を再確認するきっかけにもなった。また、他の分野を専門とする教員や院生と積極的にコミュニケーションを図ることや今回のような情報交換会に参加して議論することもこれからの研究を進めていく上でプラスになるといえるだろう。特に今回は研究方法という点からこれは研究の道に励む全員に共通する項目であると思うし、これからさらに研究を深める者やこれから現場に出る立場としても良い刺激となった。今日得た学びを念頭に置き、今後役に立てていきたい。

<終了後のアンケート結果より> (回収数：16 通)

1. 本日の企画は、どのようにお知りになりましたか？<情報入手先>

- (1) 開催案内の用紙…6 (2) 学会ホームページ…6
(3) その他…7 (「学会 ML」、「教員からの紹介」、「前回参加した為」、「学会活動へ関与」)

2. 本企画について

(1) 内容

- ①有意義だった…15 ②ふつう…0 ③有意義ではなかった…0

(2) 時間

- ①長かった…1 ②ちょうどよかった…15 ③短かった…0

3. 本企画への感想、今後の企画に関する要望等 (自由記述) (※抜粋)

- ・リサーチクエストという研究者の共通課題について、それぞれの研究者の多様な考え方に触れることができ、大変有意義だと感じた。発表時間がもう少しあってもよいかもしれないが、後半との兼ね合いもあるので仕方がないかもしれない。
- ・修士の方、博士後期課程の方、修了の方と三段階の方々の報告、視点を聞く機会をもてたことは、私が今後研究を進めていくうえで参考になった。先をイメージできた。
- ・分析方法について、どのようなものがあり、どうやって学べばよいのか具体的に学ばせていただきたいと思った。
- ・共通のテーマを持つ者同士で自由に語り合えるカフェ?的なものを別に用意していただけるとありがたい。
- ・3人の報告者の発表はとても学びとなった。現場で働きながらの研究、執筆、調査はとても大変ですが、とても元気が出て、勇気づけられた。私はいつも挫折しそうになるが、この企画を通して、もう1回頑張ってみようと思いを新たにしました。今日は本当にありがとうございました。
- ・リサーチクエストを解決するための研究方法を具体的に話していただけて理解が深まった。実践と研究が結びついているところが有意義と思った。
- ・3名の報告者の方がどのような問いを持ち、リサーチクエストを設定されたのか興味深く発表を聞かせていただいた。また、どのような研究方法を用いられたのか、結果も丁寧に説明していただいた。方法については、アクションリサーチに関心を持った。今後勉強していきたいと思う。本日はありがとうございました。

・自身も社会人院生として苦勞してきたこともあり、このような場をもう少し早く知ることができれば・・・と感じている。社会人院生だからこその役割もあるとのことだったので、これからは現場からも積極的に研究の場に出て行きたい。職員も出していきたいと思う。

・今回のように論文の発表を聴くこと自体が初めての体験であったので、私の中に新しい風が吹いた気がする。私自身も、現在修士論文を書こうとしている最中であって、どのように論文を書いたらいいのか、伝えたいことは何か、どのような方法で研究したらよいかなど、具体的に参考になった。

・私にとって、大学院は別世界のような気がしているが、今日のお話は、内容もお人柄も背伸びしない感じで聞かせていただいた。一方的に聞くだけでなく、「自分はどう考える？」と行き来しながら考えることができた。大切な時間だった。

・タイムリーな話題だった。大変有意義だった。助言者の小山先生のお話をしっかりと聴きたいです。

・社会人院生としての在り方を、今年度社会人院生になったばかりの私にとっては、とても参考になった。ありがとうございました。

・内容でなく、研究方法に焦点を当てた企画がよかった。専門とは異なるテーマであっても、土台の部分は皆同じであると思うので、これからの研究を進めていくうえで役立つものであった。また、先行研究の進め方など、原点に振り返ることもできたので、今後の参考にもなった。

・きちんと（報告内容の）頁を示してほしい。

・（若手研究者・院生情報交換会を）ぜひとも継続してほしい。

・今後も実践に結びついた研究について取り上げてほしい。

ご参加下さいました皆様、アンケートにご協力いただきました皆様に心より御礼を申し上げます。今後活かしていきたいと存じます。誠に有り難うございました。

（第46回 若手研究者・院生情報交換会 担当 佛教大学 伊部 恭子）